

# 【セッション2】 報告

## パネルディスカッション：SDGsを地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

### <パネリスト>

- |        |                           |
|--------|---------------------------|
| 教育委員会  | 齋藤修一（福島県只見町教育委員会）         |
| 学校     | 輪湖みちよ（墨田区立両国中学校）          |
| 社会教育施設 | 山口慶子（島根県立しまね海洋館）          |
| 自治体    | 東福光晴（富山市環境政策課）            |
| 企業     | 池内計司（IKEUCHI ORGANIC株式会社） |

### <モデレーター>

- 及川幸彦（東京大学）

※敬称略

セクター 発言者（敬称略）	所属	発表のポイント
教育委員会 齋藤修一	福島県只見町教育委員会 前教育長/ 只見町ブナセンター長	ESDへの大いなる期待：後悔→ESDの教育的効果 只見愛：再発見→故郷への誇り→持続可能な地域づくり ネットワーク：脱皮→教育は何のためにあるのかとの問い
学校 輪湖みちよ	墨田区立両国中学校 主任教諭	都市部の中学生の地域との関わり→都市部の課題を踏めて 防災・街づくりを課題に課題発見・解決のプロセス 防災、街づくり等の提案→地域への参画・貢献意欲が高まる
社会教育施設 山口慶子	島根県立しまね海洋館	海洋館のリソースを活用し、親子で楽しめる学び 研修会→学びのネットワーク（成長するネットワーク） 「いわみっ子大作戦」→学校や地域の人にアピール
自治体 東福光晴	富山市環境政策課 課長代理	SDGsに向けた自治体による包括的な取り組み SDGs未来都市／富山地域循環共生圏プラットフォーム 学校とのつながり 小中学校／高校 若い人の声をしっかり聴く SDGsの自分ごと化 SDGsサポーター登録制度による市民の巻き込み
企業 池内計司	IKEUCHI ORGANIC 株式会社 代表	今治タオルの次のステップ→オーガニックのみ使用 最大限の安全の可視化と生産地への貢献 モノづくりをしたい子供、若者は大勢いる→開かれた工場、プ ロセス→多くの若者の応募、転職

セクター 発言者（敬称略）	育てたい人材像	ネットワークづくりのポイント
教育委員会 齋藤修一	只見を誇りに思う子ども 「否定教育」から「誇り教育」へ	地域のための教育という明確な目的意識 →「 <u>自己実現</u> 」から「 <u>共生、共創</u> 」の教育への理念を軸とするネットワークへ
学校 輪湖みちよ	課題を自分ごととして取り組める子ども	生徒の活動を通じた学校と外部との連携 ESDの学校内外の教員同士の学び合い→生徒体の「 <u>社会に開かれた教育課程の実現</u> 」
社会教育施設 山口慶子	学びのネットワークづくりからのアプローチ	動くネットワークづくり→箱ものを学びの連鎖をつくる→ <u>子供間、世代間の学び継承・発展するネットワーク</u>
自治体 東福光晴	コーディネート力の高い人 住民目線で地域力のある人 国内、国際とつなげる人	セクターや世代を超えた共感できる街づくりのビジョンの共有→ <u>行政や分野の縦割りを横したネットワーク</u>
企業 池内計司	「つくる責任」を自覚し、モノづくりの楽しさを自覚できる社員	社員の納得する共感のネットワークづくり 恰好だけでない、無理のないSDGs →「 <u>持続可能な生産と消費</u> 」を軸としたネットワークの構築へ

# まとめ：ESD for 2030に向けた「多様な主体の参画と協働」

○ESDはSDGsの心臓、ESD is at the heart of SDGs

- 多様な主体のネットワーク→グローバルなESDの推進→SDGs達成（持続可能な社会の実現）

○ユネスコ活動の活性化について（建議）との連携

1. ESD for 2030 を日本が主導：SDGs達成に向けた、持続可発のための教育（ESD）の推進における主導的な役割の維持
4. 地域創生への貢献：ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築
5. 多様な主体の参画・協働：多様なステークホルダーの連携を深める戦略的プラットフォームの構築